



News from TNU

2017年4月に天津師範大学 DD 正式4期生と共に、武穎先生を外国人特任教員としてお迎えしました。武先生は2度目の引率です。

今年の4月に、天津の留学生の引率教員として、三重大学に来了。今回は二回目。生活に慣れるのに時間があまりかからなかった。「海辺の大学」と言われる三重大学で、学生たちともこの一年間もいろいろ満喫しようと楽しみにしている。

4月8日は入学式だった。まったく咲く気配のなかった桜も一晩満開して、不思議だと思った。天津の学生17人と一緒に入学式に参加し、日本の入学式を再び体験できた。学生たちははじめて海外の入学式に出たので、とても楽しそうで、いよいよ始まる留学生活を楽しみにしていそうであった。

新学期が始まって1ヶ月半になった。例年とおりに教育学部の先生や学生たちに多大な協力を得て進んでいる。学生たちの難しいながらも頑張っている姿をよく見かけている。みなさんはそれぞれ好きな分野の知識を学び、人によっては語学力不足や睡眠不足などと戦っている毎日を送っている。

グローバル化した今の世界、情報化社会とは言うに及ばず、インターネットプラスの出現と発展も著しく人々の生活を変えている。このような激しい変化の中、変貌しつつある中国でも、たとえば北京のどこかの高層ビルでは、毎日新製品や新技術の発表会が開かれ、知識が前より一層爆発している。このような時代を迎えるために、どんな身構えを取ればいいのかは、社会人ばかりか、将来会社に出る学生も考えなければならない問題ではないかと思う。

引率教員の一言

外国人特任教員 武穎（天津師範大学）



笑顔が素敵な武先生

地理の束縛と国境を越え、留学を志す人は、どの時代にもいる。唐の時代に、日本からの留学僧や留学生もたくさん長安に集まったし、鑑真のような日本に渡航し、奈良に唐風を吹かした文化の使者もいた。今では、海外で留学し、その国の文化を学び、国際人の第一歩をしっかりと踏み出している学生はどれほどいるのだろう。このような学生たちは皆現状打破の勇気とハングリー精神があり、いつも新しいものに挑戦し、パワーアップを目指す人々である。今度の留学生たちにもぜひこのような人になってもらいたい。

新しい時代において、よく生存していくために、しっかりと専門知識を勉強するのはもちろん、時代の先頭に立ち、最新の知識や情報などを早く入手するような覚悟も必要である。しかし、変化や競争が激しい時代にも、初心を忘れ、貪欲に負けるような人間もたくさん出てきている。知識を学ぶのはお金のためではなく、よりよい自分になるためである。今度の留学生たちにも、ぜひ感受性豊かで、文化の衝突と交流を両方楽しみ、自国と他国のよさを覚え、より優秀な人材になってもらいたい。

留学生の引率教員としての私自身も、今年目標は「地才」にしている。「地才」は中国の流行語で、天才の反対語で、天資が足りないが、頑張っている人間のことを指す。ぜひ今度の留学生たちと一緒に頑張って、それぞれのいい未来を作ってみよう。

三重大学での留学生活

天津師範大学 DD 正式第4期生 郭靖



4月8日 三重大学での入学式

光陰矢の如し。あっという間に、私たち日本に来て、もうすぐ2ヶ月になる。3月31日、初めて日本の土地を踏みしめた時、ハラハラした心がやっと穏やかになった。初めての飛行機、初めての海外で、実際に日本での生活が始まるから、とても興奮している一方、うまく慣れるかどうかの不安もあった。

外国人留学生寄宿舍で生活を始めて一週間が過ぎると、いよいよ入学式の日、キャンパス内の桜が満開した。私たちはスーツを着て、初めて海外の大学の入学式に参加した。その後、新学期が始まり、本格的な留学生活も始まった。実際に日本で生活や勉強をしてみると、いままで教科書で学んだ日本や日本語の知識はどれだけ足りないのがわかった。日本人はみんな電車の中で居眠りしたり、漫画を読んだりだけでなく、自電車に乗る時、一体右側なのか、それとも左側なのかよく迷う。また、ゴミの捨て方も、最初はよく間違っていたが、ようやくちゃんと分別して捨てられるようになった。中国には「郷に入っては郷に従う」という諺がある。留学生としての私たちは、この諺をうまく活かすためにもっと頑張っていきたい。

人間と人間を結ぶものは縁である。三重大学のおかげで、日本人の先生方から学習のご指導をいただき、たくさん友だちと知り合い、日本の景色や人文を満喫している。留学生に

なって初めて親元を離れて一人暮らしをしているので、いつも先生方や友だちから「無理しないで相談しなさい」「しっかりご飯食いなさい」「ばんがりなさい」というような暖かい言葉をいただいている。これは皆いつも励ましてくれるような言葉で、そこから溢れる友好と優しさに胸を打たれている。どこに行っても、やさしくしてくれる人たちの存在で涙が出

るくらい感動している。三重大に留学することができ、本当によかったと思う。

留学は世界を知る窓口を開いてくれている。今までの自分を見直して、輝かしい未来をこの手で作るために、これからみんなと一緒に一生懸命頑張っていきたい。

海外留学報告

4年次に9ヶ月間海外留学した学生に留學生活の感想を書いてもらいました。

■ 私の世界を広げてくれたカナダ・トロント ■

英語教育コース4年 北尾美沙 (65期生)

皆さんには、18歳のコロンビア人の友達がいますか。31歳のブラジル人の友達がいますか。35歳のカナダ人の友達がいますか。このような幅広い年代、人種、国籍の人々と出会い、交流してたくさんの友達を作り、様々な経験をし、自分が如何に狭い世界で生きてきたかを思い知ることができた、それが私の留学でした。



語学学校で一緒に勉強したクラスメイト達
(前列左から2番目が北尾さん)

私は、2016年4月から2017年1月までの9ヶ月間、カナダのトロントに留学していました。最初の5か月間は、語学学校にて英語の学習をし、その後、受験後に4か月間 Collegeにて授業を受講するという形で留学をしました。「このまま日本にいて、自分の Speaking 力は向上が見込めるのだろうか。今後、英語に集中して英語の勉強だけをする機会はなかなか得られないのでは」この疑問、考えが私を留学へと決心させたのだと思います。また、留学をすることで自分

の英語力を高め、知見を広げたいと考えたことも留学を決めた理由でした。

実際に生活してみると、カナダはとても自然が豊かで、移民に対して寛容な国だという印象を強く持ちました。街を歩けば、いろんなところから韓国語やスペイン語、また、様々な訛りの英語が耳に入ってきます。トロントは、まさに移民で構成された都市でした。だからこそたくさんの国籍の方と交流することが出来た様に思います。また、留学後半では会話の機会を増やす為に、積極的に英語と日本語の言語交換のコミュニティに参加をしました。そこで交流の機会を得るようになってから、日本がいかに注目され、評価されている国なのかを知り、また自分の日本に対する知識のなさを思い知らされました。たくさんの新たな刺激を受け、現地で仲良くなった友達と共にとても充実した日々を送る事が出来た、この9か月間は私にとって大切な財産です。

留学はもちろんお金もかかりますし、時間も割くことになります。大変な事、困難な事もたくさんありました。しかし、それだけの価値があると私は挑戦してみて強く感じます。日本で育ってきたからこそ、日常生活での「あたりまえ」という概念が崩れる経験、日本ではまず出会うことがなかったであろう人々との交流など、多くの経験をとおして英語力だけではなく、人間的にも一回り二回りも成長できた、そして日本という国を客観的に見る事ができた、またとない貴重な体験になりました。この留学で得られた語学力や経験、そして自信は、今後の自分にとって確実にプラスになっていくと感じております。

■ アイルランド・フィンランドへの2ヶ国留学 ■

英語教育コース4年 東尾美典 (65期生)

私は2016年4月から12月までの9ヶ月間、アイルランドとフィンランドへ留学しました。最初の半年間はアイルランドで英語を、その後約3ヶ月間はフィンランドで現地の教育を学びました。

アイルランドもフィンランドも留学先としてはあまりメジャーな国ではないと思います。もともと私は英語圏の別の国へ行くことを考えていたのですが、費用面や治安面から、まずアイルランドへの留学を決めました。他の英語圏の国よりも圧倒的に日本人が少ないという点もアイルランドを選んだ理由のひとつです。また、フィンランドへの留学については、現地の小中学校でインターンシップができるプログラムがあることを知り、近年注目されているフィンランド教育の現状を知る良い機会だと考え、留学を決めました。

アイルランドでは、語学学校に通いながらアカデミックな英語を学びつつ、レストランでの接客の仕事を通して英語でのコミュニケーション能力を鍛えました。フィンランドでは、毎日小1~中3までの全てのクラス、ほぼすべての教科の授業にアシスタントとして参加させてもらい、時には英語や算

数、宗教の授業を担当させてもらいながらフィンランドの教育法について学びました。

それぞれの国での滞在が短期間だったということから、できるだけ早く馴染みたいと思い、留学中は常に積極的に行動することを心がけていました。その結果、どちらの国でも非常に濃い人間関係を築くことができ、さまざまな体験ができました。特にフィンランドでスクールインターンシップに参加したことによって、英語習得の初期段階に携わりたいという思いが強くなりました。

日本に帰国してからも、アイルランドで出会った友達やフィンランドでお世話になった先生方・子どもたちとの交流は続いています。この留学で得た多くの出会いや体験は私の宝物です。留学という大きな決断をするにあたり相談に乗っていただいた先生方、背中を押してくれた家族や友人には感謝の気持ちでいっぱいです。



フィンランドの子どもたちに折り紙を教える